

# BREXITとEUの将来

英国の欧州連合(EU)離脱をもたらした反グローバル主義やポピュリズムのうねりが、EU全体に波及することが懸念されている。BREXITを踏まえたEUの将来と、台頭するポピュリズム(大衆迎合主義)について、フォン・ヴェアテルン 駐日ドイツ大使が語った。

講演：ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン 氏

駐日ドイツ連邦共和国大使



## BREXIT後の英国とEUの関係

昨年6月に英国で行われた国民投票によるEU離脱の決断には驚いた。英国は、世界各国にとって重要な投資先であり、ロンドンをEUへの懸け橋と考えていた企業も多い。しかし、今回の国民投票の結果によって、英国の将来には不確実性が生まれ、企業がビジネスを行う上で大きな不安要因となっている。多くの日本の企業も英国に投資しているが、欧州でのビジネスを見直すところもあるのではないかと。

英国のメイ首相は、「EUの単一市場から完全に脱退する」ことを明らかにした。当初、英国が「モノ」や「サービス」の移動は自由を維持しつつ、「ヒト」の移動のみ制限する、いわゆる「ソフトランディング」を目指しているのではないかと考えていたが、首相の発言により方針が明確となったことには安堵した。また、メイ首相は「離脱後は、欧州と新たな協定を結びたい」とも述べている。

現在、EUは世界各国と80以上の自由貿易協定(FTA)を結んでいるが、英国はその恩恵を失うことになる。今後、各国と再度交渉してFTAを締結することになるが、これには数年の時間を要するであろう。

英国がEUからの離脱を通知し、リスボン条約50条で定める最長2年の交渉期限を迎えるまでの間、さまざまな挑戦が待ち受けているだろうが、英国もEUもこれを乗り越えるであろう。英国が欧州の一員であることには変わりなく、G7、G20のメンバーであり、国連

安全保障理事会の常任理事国でもあり続ける。これからも欧州の中心的な国であり、英国が完全に欧州に背を向けるとは思わない。

## ポピュリズムの台頭を促した原因

現在、なぜ世界で反グローバル主義やポピュリズムの波が大きいうねりを見せているのだろうか。いくつかの原因が考えられるが、一つには民主的な政治制度や伝統的な価値観への信頼感の喪失が挙げられる。

また、グローバル化は世界中の多くの人々に利益をもたらすが、一部に負け組を生み出すのも事実であり、彼らにはグローバル化への不信感がある。グローバル化の波に取り残されたと考えている人たちは、その理由を知りたいことから、ポピュリズムの主張に惑わされやすくなる。

技術革新の速度がますます加速化していることも、ポピュリズムが台頭する原因となっているのではないかと。現在は第四次産業革命(インダストリー4.0)を迎えているといわれるが、過去三度の産業革命と比べ、インターバルがだんだん短くなっている。このスピードに適応できなくなっている人たちも多にいる。

SNSもポピュリズムの台頭に大きな影響を与えている。人間は自分と同じ意見を持つ人の話に耳を傾けるが、自分と完全に意見の違う相手とは、友人にはならない。SNSのアルゴリズムにより、人々は自分と同じ意見だけをネット上で読むことが可能になった。この点もポピュリズムの勢力拡大を促して

いるのではないかと。

最後に移民や難民の問題がある。ドイツをはじめとする欧州は、移民を受け入れてきた歴史があり、異なる政治や宗教の交わりにより、強靭さを増してきた。しかし現在は、未曾有の規模ゆえに人々が不安を感じている。ドイツでは、第二次世界大戦後の経済発展に移民の貢献が欠かせなかったことを、国民が理解している。そのドイツでさえ、極右政党が台頭してきている。

## ポピュリズムに対抗するには

世界中のどの国もこのような不信感や不安から逃れられず、ポピュリストはそこにつけ込んでくる。ポピュリストたちは、不安から生じる疑問に対して簡単で分かりやすい回答を持っている。一方、グローバル化を推進し、国を開くべきと考える人たちの考えは、説明に時間を要してしまう。

ポピュリズムに対抗するには、日本やドイツなどの民主主義国家が若者に、意見が異なる人たちと議論をすることの必要性和メディア・リテラシーを教えることが重要だと考える。ポピュリズムや右派の台頭は、われわれ民主主義への警鐘であるにとらえている。

日本とドイツは、世界の国々の中で最も協力態勢が整っている国同士だ。両国ともエネルギー政策、人口問題など共通の課題を抱えているが、その対応はさまざまだ。しかし、異なる考えを持っているからこそ日独の議論は重要であり、実り多くなるだろう。不確実性が増しているこの時代に、両国が協力していくことを願っている。